

受領No. 1611

聴覚情報処理障害者の生活世界探求の試み：言葉に頼らない人たちと考える新しい社会の姿

代表研究者 三谷 雅純（兵庫県立大学自然・環境科学研究所 客員教授）



An attempt to explore the living world of Persons with Auditory Processing Disorders: a possible new society to think about with the persons who do not rely on language

Representative Masazumi Mitani (Visiting professor, University of Hyogo, Institute of Natural and Environmental Sciences)

研究概要

聴力はあるのに発話や音楽を聴いても脳が認識できない状態を聴覚情報処理障害（APD）と呼ぶ。脳血管障害の結果、失語症になった人の例が聴覚失認として広く知られているが、発達障害や認知症の一部などからも同様の症状が報告されている。従来、APD 者の内面を知ることは困難であるとされ、未知のままであった。申請者は緊急災害情報を届ける情報保障の観点から、APD 者が理解しやすい多感覚統合の利用を試みてきたが、最終的には 50%未満の APD 者にしか理解させられなかった（三谷、2022）。そこでアプローチを変え、音声文字変換アプリを利用して少数の APD 者にインタビューと行うことにした。ただ APD 者へのインタビューは困難を伴うので、その介助者や家族、言語聴覚士との応答、昔の写真などを補助的に参照して、APD 者の語りを中心とした生活世界を描き出すことを試みる。この方法によって APD 者が現に抱えている問題だけでなく、人生観や死生観までも明らかにしたい。さらに、これまでは研究の対象にならなかった APD 者の思考から、障害者と非障害者との繋がりばかりでなく、経済格差や国境を越えた繋がりを実現できる新しい社会を形づくる手掛かりを探りたい。